

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）

県政の課題（テーマ）報告書

令和1年 8月 23日

山梨県知事 殿

氏 名 市川沙絵
留 学 先 ハンガリー
留学期間 平成30年 8月 16日
～令和1年 7月 31日

1 研究の課題（テーマ）

県民の文化芸術活動への参加促進のために必要な取り組みについて

2 概要

与えられた県政の課題（テーマ）の解決に導く考え方及び対応策等

ハンガリーのブダペストで約1年間生活をする中で、文化芸術分野に価値が置かれ、人々もそれを大切にしていることが感じられる場面がいくつもあった。特に音楽面ではそのことが顕著に感じられた。コンサートの数の多さやそのチケットの価格の低さ、音楽教育の充実度などに驚くとともに、日本、及び山梨県においても参考にすることができるのではないかと思われる点もいくつか考えられた。ヨーロッパと日本ではこれまでの歴史や文化、気候や人々の気質などあらゆる面で異なるため、ブダペストで行われていることをそのまま山梨県で行ったところでうまく機能はしないだろう。しかし、人々が生の音楽をより身近に、気軽に感じることができるようになるために改善できることはあるのではないだろうか。例えば演奏場所について。ハンガリーでは日本に比べ低い価格および無料で演奏場所を確保することができる。山梨県においてもより低価格で会場を借りることができればチケット代を上げる必要がなくなり、より多くの方に足を運んでいただくことにつながるかもしれない。また音楽教育についても、根本的に学校教育を変えることは難しいかもしれないが、子どもたちがもっと音楽に触れる機会をもつことができるような工夫をすることはできるだろう。子どもは音楽に触れ、そこに適切な働きかけが加われば様々な力を伸ばすことにつながる。私たち演奏家が、子どもたちも楽しみ、そして学ぶことができるようなコンサートを企画し実践していくことはもちろんのこと、県としてもそういった事業が展開されるよう望んでいる。

今後ますますデータ化や機械化が進み、更なる利便性が追求されていく世の中になっていくと考えられる中、人々の心の豊かさを育むことができる文化芸術分野により一層の価値を見出していく必要があるのではないだろうか。

3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は12ポイントとしてください。）

県政の課題報告書

山梨大学大学院芸術文化コース 市川沙絵

課題テーマ：県民の文化芸術活動への参加促進のために必要な取り組みについて

私は音楽の盛んな国のひとつであるハンガリーに留学し首都のブダペストで約1年間生活をしていましたが、そこでは文化芸術の存在価値が非常に高いことを常感じていました。その中で音楽分野において私が特に日本、山梨県とは異なっていると感じた特徴について挙げたいと思います。

まず、開催されているコンサートについて。ブダペスト市内にはコンサートホールや劇場が数多くあり、オフシーズン以外は毎日コンサートやオペラ、バレエやミュージカルなど様々な催しが行われています。私が通っていたリスト音楽院の本校舎にも大小のコンサートホールがあり、ほぼ毎日コンサートが行われていました。そのほとんどはクラシックコンサートですが、ジャズやダンスコ



(リスト音楽院大ホール)

ンコンサートが行われることもあります。そこではハンガリー国内のプロのオーケストラ、演奏家たちはもちろんのこと、世界各国の第一線で活躍している一流の演奏を聴くことができます。何よりも驚くのはそのチケットの価格で、おそらく日本の3分の1、4分の1といった安価で手に入れることができます。さらに私たちのようなリスト音楽院在学生の場合、リスト音楽院で行われるコンサートは予約をすれば無料で聴くことができ、ブダペスト最大のコンサートホール会場で行われるものも学生券は500ft、日本円にして約200円でチケットを購入することができます。日本にいたころには考えられない価格であり、多い時には週に3回もコンサートに出かけることもありました。音楽を専門的に勉強している自分にとって素晴らしい演奏に数多く触れることができたことは大変



勉強になりました。そしてこれほどたくさんの催しが日々行われている中でも客席は埋まっていることが多く、ハンガリーの人々の芸術に対する関心の高さをうかがい知ることもできました。

(リスト音楽院小ホール)

もう一つは音楽教育の充実度について。ハンガリーはコダーイの考えに基づいた音楽教育が展開されており、非常に充実しています。子どもたちは普通小学校に通いながら、私が見学に伺ったような音楽学校においてもソルフェージュのクラスや楽器の個別レッスンを非常に低い料金で受けることができます。また、子どもや幼児を対象にしたコンサートも定期的に行われており、プロジェクターを用いたり、ナビゲーターをおいたり、体験型であったり、通常のコンサートよりもコンパクトな構成だったり、様々な工夫が見られます。子ども対象とはいえ演奏者はプロの方々で、「良い音楽だけを聴かせる」というコダーイの理念をここにも実感することができました。私自身何度か足を運びましたが、毎回ポイントを絞ってそのコンサートで何を学ばせたいのかという意図が明確になっており、子どもたちにとっても非常にわかりやすく、楽しみながら学べる内容となっていました。このような音楽教育面を見てみると、幼いころから音楽に親しむ環境が整っていることを実感するとともに、そのことが通常のコンサートに足を運ぶ多くの大人たちをつくる一つの要因ともなるのではないかと感じました。

山梨県においてももちろん生の演奏を聴ける機会はたくさんありますが、ブダペストと比較すると、人々の関心が集まりにくく集客が容易ではない、子ども対象あるいは子連れでも気軽に聴けるコンサートが少ない、ホールなどの会場費が高い（よってチケット代が高くなる）、などの違いが挙げられます。日本とハンガリー、山梨県とブダペストでは、文化や歴史、人種、行政など全ての面において異なる背景を持っているので、仮にブダペストで行われていることをそのまま山梨県に適応させたとしてもうまくいかないでしょう。しかしそのことを踏まえたうえでこうした問題に対し山梨県もぜひ取り組んでいただきたいこととしては、県の施設での演奏場所や楽器の確保、またその使用料の見

直し、事業としての文化芸術促進の活発化などが考えられます。私たち演奏家は、聴いてくださる人々はもちろん、演奏できる場があって初めて成り立つ存在です。特に私のようなピアニストの場合は他の楽器のように自分で楽器を持参することはできず、その場その場にある楽器を用いることで演奏を提供することができます。費用やスペースなどを考慮すると簡単に設置ができる楽器ではありませんが、ピアノがあることによって演奏のスタイルの幅は格段に広がります。山梨県内の多くの素晴らしい演奏家のみなさんがそれぞれ県内で力を発揮するためには、まず演奏をできる場があるということが前提として必要です。もちろん県内にもいくつものコンサートホールや演奏可能な施設が存在していますが、それらの場所を借りることは決して安価ではなく、利用料の値上がり傾向によって演奏場所の確保の難しさに拍車をかけているところも多くあります。そのような現状では、チケット代を上げざるを得なくなり、結果的に集客の難しさへとつながってしまいます。県民の方々がもっと身近に演奏を楽しむことができるようになるためにも、演奏場所や機会をより確保しやすい環境を整えていただけることを期待しています。先日、山梨大学の大村智記念学術館には県民の方からグランドピアノを寄贈していただき、演奏が行えるようになりました。私自身大変嬉しく思い、今後芸術活動を含め広く活用され、県民のみなさんが交流できる場となることを望んでおります。またコンサートとは形式が異なりますが8月1日から1か月間、甲府駅北口にはストリートピアノが設置されているとのことで、このように誰でもが演奏者として気軽に楽しめる、そしてその音楽を通してコミュニケーションが生まれる場があることはとても素晴らしいことだと思います。期間限定ということですが、この先もさらにつなげる取り組みとなり、山梨の音楽の輪が広がっていくことを願っています。

さらに県には、県民、特に子どもたちにとって良い音楽に触れる機会を与えるような事業を積極的に行ってほしいと思っています。具体的には学校における芸術鑑賞会のさらなる活性化や、大規模でなくても県民の演奏家による音楽界などの開催、楽器体験事業、他芸術との融合（演劇や朗読、絵画など）といった取り組みなど様々なことが考えられます。ダイナミックやまなし総合計画における政策3においても、そのほとんどがスポーツ分野に言及されており、文化芸術分野にはあまり触れられていない印象を受けました。幅広い世代の県民に向けてスポーツ分野だけでなく文化芸術にも人々の関心が向けられるような取り組みが行われることで、人々が心身ともに健康で充実した生活を送ることにつながると思います。

また私たち演奏家も質の高い演奏を提供できるよう常に向上心をもって追求し続けることはもちろんのこと、ただ演奏をすればいいというわけではなく社

会のニーズや流れに沿って様々な工夫を凝らしていく必要があります。演奏形態、選曲、コンセプト、宣伝方法など、多方面でのセルフマネジメントを行うことが重要となってきます。私は今後、自分が生まれ育った山梨県で、単にピアノの弾き方を教えるのではなく教育的視点をもち人間形成に関わっていけるようなピアノ指導者として、音楽を愛好する人々の育成に貢献していきたいと思っています。そして子どもたちに自分の演奏や指導を通して、音楽っていいなと感じてもらえたり、夢や希望を与えたり、またそれを支えていけるような存在になりたいと考えています。そのために、山梨大学で学んだ教育分野と、海外にまで出て身に付けてきたピアノの演奏力や知識の双方を活かして後進の育成に励むとともに、幅広い客層の人々に良い音楽を提供できる演奏者としても活動していきたいです。

科学技術の発達が著しく、機械化が加速している現代社会において、芸術の存在がだんだんと希薄になってしまっている現状を感じています。今ではインターネットを通じてどこにいても簡単に音楽が聴けるようになり、その利便性を否定することはできません。しかしその一方で、生の音楽にはそこでしか味わうことのできない感動があることは確かです。ダイレクトに空気を伝わって感じる振動や響き、それぞれの演奏者によって奏でられる音や息遣い、その場にいるすべての人々とその場限りの時間芸術を共有する一体感など、足を運んでこそ得られるものはたくさんあります。それらは全て時間とともに無くなってしまうものではありませんが、その人々の一瞬を幸せにすることができたり、エネルギーを与えることができたり、答えがないものだからこそ聴き手とパフォーマーによって無限の可能性を持っていると思います。また、幼いころから良い音楽に触れることは感性を磨き、表現力や創造力、集中力などを養うことにも繋がります。目まぐるしく変化する多忙な社会のなかで人々の内面の豊かさを育むためには、文化芸術分野にこれまで以上に価値をおいていくことが今後重要になってくるのではないのでしょうか。

(イシュトバーン大聖堂前で行われたオーケストラの演奏と子どもたちのダンスのコラボレーション企画)

